

◎第1分科会（組織運営）

（寄稿者 穴水町 PTA 連合会会長 中村伸幸）

会場 上越文化会館

研究課題 PTA から始まるチーム活動

～地域とともに歩む笑顔あふれる PTA 活動～



●歓迎アトラクション

NPO 法人 ワセダクラブ北信越支部

●基調講演

真鍋 政義氏

全日本女子バレーボール元代表監督

逆転発想の勝利学

～チームのスイッチを入れる～

●実践発表

木村修一氏及び PTA 会員一同（旧新潟県糸魚川市立市振小学校保護者代表）

チーム市振小

～子供たちへの未来の取組～

●パネルディスカッション

コーディネーター 長谷川 敬子氏(国立大学法人上越教育大学特任教授)

パネリスト 横澤 富士子氏(新潟県糸魚川市教育相談員)

中野 敏明氏（新潟県上越市教育委員会前教育長）

堀川 義徳氏（新潟県小中学校 PTA 連合会前会長）

中島 智子氏（山梨県 PTA 協議会副会長）

森本 卓也氏（公益社団法人日本 PTA 全国協議会前理事）

歓迎アトラクションでは、NPO 法人ワセダクラブ北信越支部所属の子供たちのチアリーディング演技が行われました。チア（cheer）とは、『励まし、歓声、喜び』の意味でリーダー（reader）とは、『指導者』です。子供たちが集団でひとつになり、迫力のある演技で我々を歓迎していただきました。

真鍋氏による基調講演では、長引く日本バレーボール界の低迷時期から、オリンピックで復活のメダルを取るまでの軌跡をユーモアたっぷりに話していただきました。日本女子バレーチームは、世界で一番平均身長が低く、なおかつセッターの竹下選手は 158 センチしかありませんでした。日本中を行脚して身長の高い選手を探して育成しようとしたのですが、所詮ロシアや中国のように 2m を超える選手を揃えることなど出来ません。そこで真鍋氏は逆転の発想で、レシーブ力を世界一にしようと考えました。バレーボールは、床に球が着かなければ負けません。男子選手のボールを拾って拾って拾いまくる練習を毎日 5 時間 3 年間繰り返したそうです。その練習のおかげで、アタック力では世界一になれなくても、レシーブ力では世界トップレベルになったそうです。

一人一人個性の強い選手たちを、強力なリーダーシップと発想の転換で選手のモチベーションを高め、チームをオリンピックでメダルが取れるところまでにもって行ったお話に、感銘受けました。

実践発表では、廃校が決まった学校の保護者たちが、学校が無くなってもこの地域にこういう学校があったんだよという足跡、思い出作りに一生懸命取り組んだこと、学校が無くなっても地域のコミュニティとして、今まで作り上げた組織を活躍させて地域の発展に寄与していこうというお話でした。学校や子供たちが無くなっても地域が一つになり、がんばる姿に感動を覚えました。

【パネルディスカッションでは、印象に残った話を箇条書きにしたいと思います】

- ・子育ての一番大事な点は、愛着形成である（0 歳から 2 歳が勝負）そのうえで、自己肯定感を高めてあげることが重要である。しかし、子供が大きくなってからでも決して遅くはないし、常に子供と共感しあうことを続けてほしい。
- ・全国的に PTA 活動への関心が薄れている。授業参観には来るが、懇談会や PTA 総会等への出席率が低い。どうせ PTA 役員をやるなら、とことん楽しまないと損である。積極的に PTA 活動に参加してほしい。
- ・常に新しい取り組みにチャレンジしていく。新たな組織作り、新たな行事をどんどんやっていくことにより、PTA 活動も活性化していく。
- ・子供の時の感動体験は、その子の人間成長、人格形成に必ず役に立つ。感動体験とは、楽しいこと、悲しいこと、すべての体験が含まれる。親としてずっと子供と付き合っていってほしい。

以上、今回全国大会での講演、実践発表等の話をたくさん聞くことができ、良い経験ができました。これらの話をもとに自分自身が子供と一緒に成長できるきっかけ作りになれば良いと感じました。今回の体験を今後の PTA 活動の参考にしたいと思います。誠にありがとうございました。